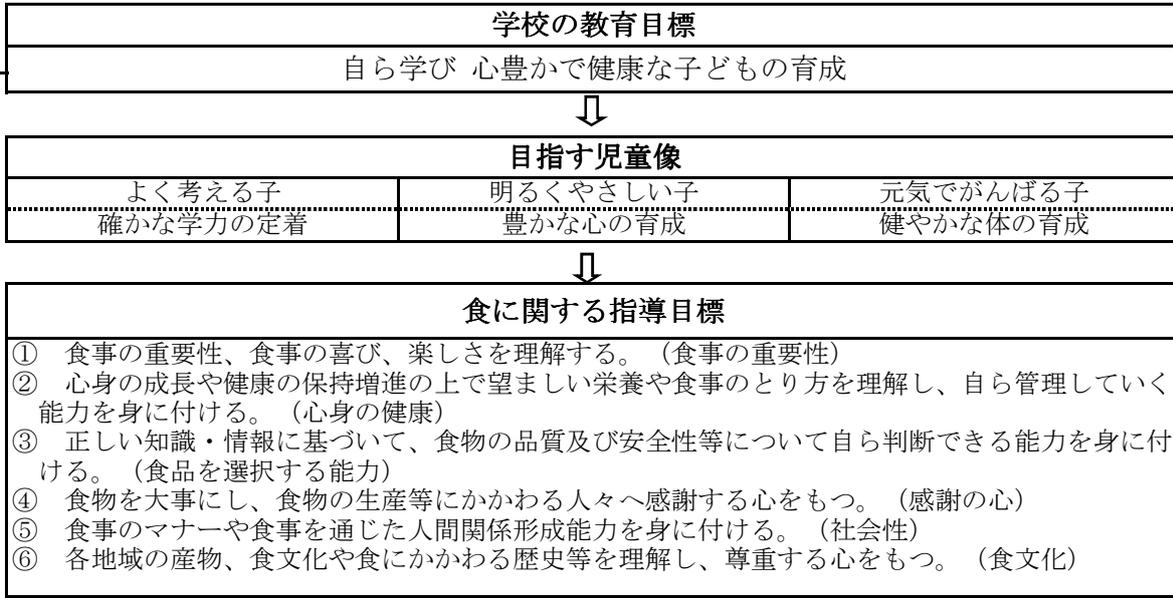


児童の実態
 ・給食を楽しみにしている児童が多い。
 ・食べる量や好き嫌いに個人差がある。

保護者や地域の実態
 ・食に対する意識に差がある。
 ・協力体制に差がある。

学校給食法
 食育基本法
 食育推進基本計画
 学習指導要領
 教育委員会の方針
 愛媛県食育推進計画
 新居浜市食育推進計画



食育の到達目標			
	低学年	中学年	高学年
① 食事の重要性	・食べ物に興味・関心をもつ。 ・朝食の大切さが分かる。	・3食規則正しく食事をとり、生活リズムを整えることの大切さが分かる。	・朝食をとることや生活リズムを整えることの大切さを理解し、習慣化している。
② 心身の健康	・よく噛んで食べることの大切さが分かる。 ・好き嫌いせずに食べようとする。	・健康に過ごすことを意識して、いろいろな食べ物を好き嫌いせず食べようとする。 ・健康に過ごすには、食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活を続けることが大切だということが分かる。	・五大栄養素と食品の三つの働きが分かり、好き嫌いせずに食べることができる。 ・食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活を続けることができる。
③ 食品を選択する能力	・いろいろな食べ物の名前が分かる。	・いろいろな料理の名前が分かる。 ・衛生的に給食の準備や食事、後片付けができる。	・食品の衛生に気を付けて、簡単な調理をすることができる。 ・食品に含まれている栄養素やその働きを考え、適切な選択をすることができる。
④ 感謝の心	・「いただきます」「ごちそうさま」の意味が分かり、あいさつができる。	・食事は多くの人々の努力があって作られていることを知り、感謝の気持ちをもって食べることができる。	・生産者や自然の恵みに感謝し、残さず食べることができる。
⑤ 社会性	・友だちと仲良く食べる。 ・食器を正しく並べ、正しくはしを使うことができる。	・マナーを考えて楽しく食事ができる。	・楽しい食事を通して、相手を思いやる気持ちをもつことができる。
⑥ 食文化	・自分の住んでいる身近な土地でとれた食べ物を知る。	・季節や行事にちなんだ料理があることが分かる。	・食文化や食品の生産・流通・消費について理解を深める。

給食指導		
①楽しく会食すること	②健康によい食事のとり方	③食事と安全・衛生
④食事環境の整備	⑤食事と文化	⑥勤労と感謝

各教科 各教科で、総合的に給食との関連を図り、そこで得た知識を給食の時間に生かす。また、給食で身に付けた経験を教科に生かす。	道徳 心身の両面から、発達段階に応じて、子ども一人一人が食に関する自己管理能力の育成を目指す。	特別活動 集団の一員としての自覚を深め、協調性や社会性を養う。また、健康の大切さを知り、よりよい生活を築こうとする実践的態度を育てる。	総合的な学習の時間 栽培活動や体験活動を通して、国際理解、環境、情報、福祉など様々な側面とのかかわりから健康問題を意識し、課題解決に取り組む。
--------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------

家庭・地域との連携
 食育だより、学年・学級だより、保健だよりの発行、給食試食会の実施、栄養個別相談指導の実施、学校保健委員会の開催、PTAとの連携、地元農産物の活用、どろんこクラブとの連携(田植え、稲刈り)、学校ホームページによる情報発信